

横須賀市議会議員

長谷川 昇

市政報告



はせがわのぼる
はせ 長谷川 昇
はせがわ のぼる

2019年4月～横須賀市議会議員三期目当選
役職等:総務常任委員会委員等、三浦半島地域連合議員団会議事務局長。

所属会派:「よこすか未来会議」(12名)

事務所:〒238-0012 横須賀市安浦 2-33-1-102

TEL: 080-4383-1633 fax: 046-854-9529

E-Mail: hasedon2@gmail.com

HP <http://hasedon.info/>

◎12月議会報告

▼12月定例議会は11月29日から12月14日までの16日間の会期で開かれました。▼議案の主なものは1億4千万円を増額する補正予算などで、追浜駅前開発の拠点として「えき・まち・みちデザインセンター」の準備、放課後児童クラブの新設、「スポーツで夢をかなえる基金」の創設、インバウンドの受け入れ環境の整備、新病院建設の契約変更、市役所内の組織改正などについて。▼また、議会最終日に市職員の定年延長に関する条例改正、妊婦・子育て家庭への「伴走型相談支援」・経済支援、などが可決成立しました。

市職員の65歳定年延長・60歳役職定年制導入

▼国家公務員法・地方公務員法の改正に伴って、2023年4月以降、職員の定年を2年ごとに1歳引上げて段階的に65歳に引き上げる条例改正を横須賀市においても提案されました。給与面は70%程度、手当、雇用条件等は定年前と変わらないとしています。また、役職定年も示され、監督職の上限を原則60歳とすることから、降格する管理職の働き方も課題となります。

定年年齢の段階的移行のスケジュール

	定年60歳		定年61歳		定年62歳		定年63歳		定年64歳		定年65歳	
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
1961年度生まれ 1961年4月2日～ 1962年4月1日	60歳 21年度 退職											
1962年度生まれ 1962年4月2日～ 1963年4月1日	59歳	60歳 22年度 退職										
1963年度生まれ 1963年4月2日～ 1964年4月1日	58歳	59歳	60歳	61歳 24年度 退職								
1964年度生まれ 1964年4月2日～ 1965年4月1日	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳 26年度 退職						
1965年度生まれ 1965年4月2日～ 1966年4月1日	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳	63歳 28年度 退職				
1966年度生まれ 1966年4月2日～ 1967年4月1日	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳 30年度 退職		
1967年度生まれ 1967年4月2日～ 1968年4月1日	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳 32年度 退職

1968年4月2日以降に生まれた人は、65歳になる年度に退職

▼12月14日、総務常任委員会で、長谷川昇は、「新しい制度は職員にとって、将来の人生設計(ライフプラン)に関わる重要な案件であることを確認し、制度の周知については丁寧に行なうこと。課題が生じた時は丁寧に対応すること。」強く求め、市担当部長から「丁寧な説明と対応をしていきたい。」との回答を得ました。▼また、今年度の人事院勧告に基づく職員の給与改定、同じく職員・市長等の特別職・議員の期末手当の改定などに関わる条例改正の議案が提出され可決しました。

出典:総務省「地方公務員法の一部を改正する法律の運用について(通知)」を元に作成

©社会応援ネットワーク/寺子屋朝日

★「スポーツで夢をかなえる基金」新設 トップアスリートの応援事業

▼市内在住・在学・在勤で、市内を拠点に活動している選手を継続的に支援するため、企業や個人からの寄附金をもとに、あらたに基金を立ち上げた。「スポーツで夢をかなえる基金」はトップアスリートの育成支援とともに、地元選手を市と民間と一緒に

応援することで、地域のスポーツ活性を狙う。対象となるのはJOC（日本オリンピック委員会）・JPC（日本パラリンピック委員会）の強化指定選手など。中学1年から高校3年までの育成プログラムを受けているJOCエリートアカデミーの選手も含まれる。

▼基金は一般財源（100万）を積み立てていくほか、市外企業を対象とした企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）、市内企業と個人からの寄附を想定。寄附者は支援する選手を指定



することもできるが、特に指定のない場合は、年度を区切って対象者に均等で分配する。市内企業・個人からの寄附残額は翌年度以降に積み立てる。▼総務常任委員会で、長谷川昇は「会派として長年要望してきた制度。対象者本人の申し出を待つのでなく、協会等への周知の必要性、対象者の「市内在住・在学・在勤」基準の確認など」を質問した。

※写真左から水泳の全国トップアスリート古賀さん（大津中）・二本木さん（鴨居中）・松原さん（大津高） はまかぜ9/23より。

★「旧市営田浦月見台住宅」を民官連携で!



▼「旧市営田浦月見台住宅」は1960年に横須賀市が開発、2Kの間取りの共同住宅や長屋が建ち並ぶ。老朽化が著しいことから2020年度に市が廃止を決定した。現在居住者はゼロ。▼道路幅員が狭いため新たな開発行為ができず、用途地域の制限もあり、公共施設の設置は困難で市としても今後の方策に苦慮。▼そこで、複数の民間事業者に意見調査では、「東京湾の眺望がすばらしい」

「リノベーションで事務所や店舗が可能」といった活用に前向きな意見が多数。▼「市は売却でなく、別の視点でまちづくりに活用」を示し、総務常任委員会で報告がありました。今後2023年3月に事業者を公募、7月以降に事業着手する計画。空き家状態になっている既存建物をリノベーションして店舗やコミュニティ空間に転用し、谷戸地域の再生活活性化をめざします。

★大矢部弾庫跡地の跡地「都市公園」に!

会派「研政」の時代から、大矢部弾庫跡地の活用については、無償譲渡を目途に取組んできました。▼今回この場所のサウンディング調査の結果について、報告がありました。報告では、「都市公園」を前提として整備する考え方が示され、がけ地部分の保全や文化財保護のあり方について質疑しました。18haの土地は軍転法の適用を受けて無償譲渡を受ける方向で協議が進められています。注視していきます



※資料は横須賀市議会 説明資料より